2009年度 代表事業②

事業名 第1回静岡JCスマイルフェスタ
～みんなでつくろう夢あふれるしずおか～

委員会 広報渉外委員会
委員長： 小笠原　勝明
副委員長： 望月　和彦
副委員長： 中村　次郎
幹事： 栗山　勝訓

事業趣旨要約
本年度のスローガンにある"夢あふれる静岡"を創ることは、"みんなの笑顔があふれる静岡"を創ることであると考え、本事業では"笑顔"をキーワードに、会場を訪れる市民の皆さんと笑顔で交流し、その笑顔が伝播していくような数々の設営を行なっていきます。
会場には（社）静岡青年会議所の手がけた事業や運動毎にブースを設け、事業や運動に一生懸命に取り組んできた会員一人一人が、笑顔で、そして熱心に静岡青年会議所を伝えていきます。また、"みんなの笑顔があふれる静岡"、"夢あふれる静岡"をキーワードにした、参加体験型のイベントやステージなどを開催し、未だ青年会議所運動・活動にかかわりが無い多くの市民に対しても、気軽に来場していただけるような集客活動、告知活動を行ないます。

背景
・NPOを初めこのまちで積極的に活動する団体・市民が増えている
・静岡青年会議所は、様々なまちづくり、ひとづくり事業を行ってきた
・市民に対して、事業内容の広報が十分でない
・青年会議所運動が市民に十分に認知されていない
・青年会議所には市民と協働して行なう多くの事業がある

目的
○事業目的（対外）
・青年会議所運動を一人でも多くの市民に知ってもらうため
○事業目的（対内）
・青年会議所運動を一人でも多くの市民に伝えるため

効果
・市民に静岡青年会議所の活動に参加していただき、同じ時間を共有し交流をすることで、言葉では伝えにくい、静岡青年会議所の活動の雰囲気や、会員の人柄、活動に対する情熱を知っていただけることが期待できる
・市民に分かりやすい形のまちづくりを実施することで、まちづくりの流れを知っていただけることが期待できる

「基本方針 迅速かつ丁寧な情報の共有及び発信・提供」の実現に関わる事項
丁寧な情報の共有及び発信・提供
日頃事業を行っている会員一人ひとりが直接市民に対して思いをこめて情報を発信・提供することが市民の琴線に触れ、市民を巻き込んだ形でのまちづくりへとつながる。"

事業概要
日 時 平成21年10月4日（日）11：00～16：00
開催場所 青葉シンボルロード 特設会場
会場に来ていただいた方に笑顔になっていただくために、様々なステージプログラム、ブースプログラムを用意
3000個のバルーンにひとつひとつ夢を書いて一気に大空に放つバルーンリリースなど、一般市民にご参加頂けるプログラムを数多く用意。

例会の流れ・目的
・静岡青年会議所が市民に十分に知られていない　（静岡青年会議所の広報が十分ではない。名前すら知らない市民が多く存在する）
・広く認知してもらいたい　（明るい豊かな社会を創造するためには市民の協力が必要になってくる）
・静岡青年会議所を発信する機会を作る　（市民と静岡青年会議所の交流する場を作る）
・どのように発信するのか？　（各事業ごとにブースを出展し活動を知ってもらう。パネルを作成し、本年度の事業を紹介）
・一人でも多くの市民に伝えるためにはイベント会場に入りやすい雰囲気作り　（ブースごとに趣向を凝らした設営で市民の興味を引く。人通りの多い青葉シンボルロードで開催する。笑顔で市民と接することで雰囲気を和ませる）

開催内容 ステージプログラム
11:00 開会
12:30 燃えろ！スンプレンジャーライブ
13:50 大声コンテスト「静岡の中心で愛を叫ぶ！」
14:30 静岡ＪＣ携帯スマイルフォトコンテスト
14:50 キッズミュージカル テーマ：～夢～
16:00 風船に夢を乗せて バルーンリリース
閉会

ブースプログラム
11:30 ブース運営開始
・ワールドフードミュージアム～世界の料理～
・自然と遊ぶ！！ネイチャークラフト～自然の恵みからアクセサリー～
・しずおか未来学園2009

達成検証
・ブースごとに趣向を凝らした設営で市民の興味を引くことができた。
・人通りの多い場所(青葉シンボルロード)で開催することで、多くの人と接することができた。
・笑顔で市民と接することで雰囲気をなごませることができた。
・五感に訴える設営をすることができた。

「基本方針 迅速かつ丁寧な情報の共有及び発信・提供」の実現への効果
市民と交流しながら一つの活動を行い、同じ楽しみ、苦労や達成感を味わうことで、リアルタイムな情報の共有を行うことが出来る。

所見
明るい豊かな社会を会員だけで創りあげることはできません。近年では行政や市民とともに活動するなど、静岡青年会議所はより広い視野を持って活動しております。そういった静岡青年会議所の運動を広く世に広め、多くの皆さんの理解を得ることが我々の運動のより一層の充実へとつながると確信し、広報ツールとしてホームページ、メルマガ、各種メディアの活用をしながら本年度委員会メンバー一丸となり広報活動を行ってまいりました。更に、すべての会員に伝えることの大変さ、大切さを知っていただくために、また、市民の皆さんと（社）静岡青年会議所の距離を縮めるために市民と向き合い直接接する機会として、10月度例会を開催いたしました。今後も、様々な試みを繰り返しながら、地道で継続的な広報活動を行っていただきたいと思います。

担当委員長Q&A

01 事業選定の理由、想いを聴かせてください。

JCと一般市民の間に距離があると感じたので、それを縮める為に地域の方々を大勢呼べる場所で青年会議所の魅力をPRする事業を行いたいという想いから選定しました。

02 メンバーをまとめる上で苦労した点を教えてください

委員長として何を目的とするのか、そしてその目的を達成するために何をやるのかをしっかりと伝えることにしました。

03 メンバーをまとめる上で工夫した点を教えてください

とにかく活動に出席して欲しいという願いを、幹事と共にメンバー一人ひとりに電話で伝えました。

04 事業を行う上で苦労した点を教えてください

市民の皆さんの御協力を得て、バルーンが飛んだ瞬間はとても感動しました。

05 事業を行う上で感動した点を教えてください

事業当日の朝、「委員長は本部で見守っていて欲しい」と言われ、メンバーが率先して運営を行ってくれたときはメンバーに自分の想いが通じたと感じ、とても感動しました。

06 笑顔が伝播していく趣向を凝らした設営を行われたそうですが、実施する際に留意した点はありますか？

会場が明るい雰囲気になるように、すんぷレンジャーやエスパルスオレンジウェーブに参加してもらい「みんなの笑顔があふれる静岡」となるように、楽しくなおかつJCの枠から外れないように留意しました。

07 一般市民向け対外事業となっていますが、この事業で1番の収穫は何ですか？

「市民の笑顔」です。一般市民とJCメンバーが笑顔で交流できたことに尽きます。

08 ＪＣ活動を発信する中で一番大事にされた部分はどんなことですか？

「静岡JCの名前だけでも知ってもらいたい」という基本方針を掲げました。そのためにも多くの方にイベントに参加してもらい、JC活動を一方的に発信するだけではなく、市民の方々にも一緒に考えていただき共感してもらうことを一番大事に考えました。

09 休日の青葉シンボルロードでの開催となりましたが、他委員会の人員配置での工夫や体制について教えてください。（危機管理の観点からメンバー以外の参加者に対するリスク管理、気配り）

すべての委員会にブース運営をしていただいたので、広報渉外委員会メンバーで対応しました。
出演者控え室は2箇所、青葉シンボルロード内およびマッターホルンでしたが、青葉シンボルロード内の控え室は出演者が不在の時の警備、マッターホルンは鍵がかかるので出演者を呼びに行く際にかぎ掛けを確認しました。
今回使用した青葉シンボルロードは各ブロックの間に道路がはいるので、横断の際の誘導を配置しました。

取材全体としてのまとめ・感想

静岡市民と直接交流する事業ということで、委員会メンバー、そしてLOM全体が一丸となってスマイルフェスタを成功に導き、青年会議所の活動を市民に向け発信し、笑顔で交流できた2008年の一大イベントだったのだと感じました。

取材前と後での特に気付いた点

「スマイルフェスタ」という笑顔をキーワードにした事業ということで、JC的な勢いでフェスタを行い青葉シンボルロードで市民を巻き込み楽しい事業を行ったというイメージでしたが、実はかなり綿密に市民にJCの活動を知ってもらうために出展ブースや出演者の工夫をしたり、参加者や市民の安全面での配慮をしたりと細心の注意を払って事前準備から行っていたのだと知りました。